

弘前市立図書館・郷土文学館のあり方



平成28年7月

弘前市立教育委員会

1 策定の趣旨

弘前市立図書館・郷土文学館（以下「図書館等」という。）がこれまで実施してきた取組の成果や図書館等を取り巻く情勢の変化等を踏まえ、今後の図書館等に求められる役割を十分に果たしていくため、図書館等サービスに新たな視点を取り入れながら、めざす方向性と具体的な取組等について整理したものです。

2 図書館等をめぐる状況

（1）図書館等の沿革と組織

弘前図書館は、明治 39 年 5 月の開館以来、平成 18 年で 100 周年を迎えました。

現弘前図書館は旧弘前市市制施行 100 周年記念事業施設として追手門広場に建設され、平成 2 年 7 月 1 日に開館しました。

また、岩木図書館は、昭和 56 年 11 月岩木町立中央公民館図書室として開室し、平成 15 年 4 月に岩木町立図書館として開館しました。

相馬図書館は、昭和 48 年 7 月に相馬村公民館図書室として開室し、市町村合併により相馬図書館として開館しました。平成 25 年 3 月 25 日に相馬総合支所の新設に伴い移転し、名称変更により相馬ライブラリーとして開館しました。

こども絵本の森は、平成 25 年 7 月 27 日ヒロロ 3 階ヒロロスクエア内に弘前図書館駅前分室として開館しました。

平成 25 年度から図書館組織の変更により、弘前図書館を本館とし、岩木図書館を分館に、相馬ライブラリーを配本所に、子ども絵本の森を分室とし、指揮命令系統を一本化しました。

郷土文学館は、旧弘前市市制施行 100 周年記念事業施設として平成 2 年 7 月 1 日に現弘前図書館の附属施設として開館しました。

図書館等は、市民への情報提供や生涯学習の場であり、市民の文化的要求に応えるため総合的に図書館等資料の収集に努めるとともに、広く市民の利用に供し、地域の教育、文化及び産業の発展向上に寄与することを目的として活動しています。

活動内容としては、図書の貸出しを行う貸出業務のほか、館内閲覧を主とした資料の提供業務、自主事業を実施しています。

また、弘前図書館では移動図書館車（BM）による巡回事業を実施しています。さらに弘前図書館の特色として、藩政時代の古文書・絵図等多くの貴重な郷土資料を所蔵しており、いわゆる史料館的機能をも併せ持っています。

(2) 図書館等の現状

弘前市経営計画では、ひとづくり「多様な学び」の政策において社会教育施設等の整備と効果的な運営の施策指標として「図書館の貸出冊数」が項目の一つとなっています。貸出冊数を含めた平成26年度・27年度の利用状況等については次のとおりです。

弘前市立図書館の利用状況等の推移(4館合計)

項目	平成27年度	平成26年度	備考
蔵書数 (冊)	550,525	561,452	
購入図書数 (冊)	13,855	13,737	
登録者数 (人)	36,341	33,971	
貸出者数 (人)	132,056	124,867	
一日平均貸出者数 (人)	411	398	
貸出冊数 (冊)	455,649	430,158	
一日平均貸出冊数 (冊)	1,403	1,336	
リクエスト数 (冊)	1,864	2,055	
レファレンス受付件数 (件)	429	300	
各種おはなし会 (人)	1,064	1,008	
読書週間 (人)	1,208	866	
図書館のお仕事やってみ隊 (人)	20	40	弘前図書館
古文書講習会 (人)	154	179	弘前図書館
ボランティア講習会 (人)	41	37	
手作り絵本講習会 (人)	19	24	弘前図書館
学校図書館訪問事業 (校)	1	1	弘前図書館
読書感想文コンクール (編)	288	202	弘前図書館
相互貸借 貸出 (冊)	541	538	利便性向上
借受 (冊)	440	417	利便性向上
読書団体への配本事業 (団体)	40	69	利便性向上
(冊)	22,259	22,958	利便性向上
図書郵送サービス (人)	11	14	利便性向上
(冊)	33	40	利便性向上
古文書補修・製本 (冊)	17	12	弘前図書館
リサイクル図書 (冊)	820	1,174	弘前図書館

項目	平成27年度	平成26年度	備考
雑誌無料配布 (冊)	1,255	1,290	弘前図書館
ブックスタート (人)	1,270	0	
ブックスタートおはなし会 (人)	184	0	絵本の森
図書館まつり (人)	40	69	
クイズラリー (人)	234	147	絵本の森

利便性向上のため上記の他、BM 運行、ホームページ・電話での予約受付を行っている

弘前市立図書館 主要事業内訳

【 弘前図書館 】

事業名	期間	内容
おたのしみおはなし会	毎月第1～第4土曜日	毎月のテーマにちなんだ絵本の語り聞かせや、ペープサート、紙芝居、などなどを通じて、読書への導入を図る
夏休みおはなし会	7月	小学生を対象に、夏・冬にちなんだ物語を題材に、読み聞かせや紙芝居等を通じて、読書普及を図る
クリスマスおはなし会	12月	
手作り絵本講習会	5月	親子でストーリーを考え、絵を描き、製本して世界に1冊だけの自分の絵本を完成させる
図書館のお仕事やってみ隊	7月、8月	2日間で「返本や貸出」「図書の修理」など、図書館のあらゆる業務を体験してもらい図書に関する知識を深めてもらう
おはなしと読み聞かせ講習会	10月	一般市民を対象に、読み聞かせの技術講習会を実施する
古文書読み方講習会（初級編）	10月	所蔵古文書等をテキストに、古文書の読み方の基本的な講習会を実施する
古文書読み方講習会（中級編）	3月	所蔵古文書等をテキストに、比較的難易度の高い古文書を読み解くための講習会を実施する
学校図書館訪問事業	通年	小中学校の図書館の現状を把握し助言等を行う
館報「はと笛」発行	年間4回	巻頭随想、新着本の紹介、読書感想文の入選作掲載、図書館行事のPRをする
「FM アップルウェブ」広報	毎月第1・第3木曜日	予約ランキング、はとぶえ号の巡回予定、図書館行事などの紹介をする
図書館ミニ展示	年12回	テーマを設定して図書資料を紹介、展示する
第47回小・中学生読書感想文コンクール	7月～11月	読書に対する関心と文章力の向上を図るため、感想文を募集する 入選作品は、文集「はと笛」に掲載する
相互貸借	通年	利用者の希望に応じ、他の図書館と図書を貸し借りする
読書団体への配本事業	通年	登録した市内の読書団体へ3か月更新で団体貸出図書の配本・回収を行う
図書郵送サービス	通年	在宅の障がい者を対象に、図書を郵送貸出しする

対面朗読サービス	通年	点字読書室でボランティアによる視力障がい者への図書の朗読サービスを行う
古文書等の補修・複写事業	通年	傷んだ古文書等を補修して保存を図るとともに、複写本を製作し、利用に供する
リサイクル図書事業	年1回	移動図書館車用の図書で除籍したものを、地区公民館、小・中学校、読書団体等に譲渡する
古雑誌の無料配布	年1回	保存期間が切れ、除籍した雑誌約1,000冊を希望者に無料配布する
ブックスタート事業	通年	乳幼児期から読書に親しめる環境をつくるため、0才児の保護者に絵本等を配付する
古文書デジタル化推進事業	通年	デジタル化したデータをインターネット等により公開することで、郷土について深く知る機会を充実させる。平成28年度は、有識者等による会議を立ち上げ、デジタル化推進とその活用方法を検討

【 岩木図書館 】

事業名	期 間	内 容
メエメエさんおはなし会	毎週土曜日	読み聞かせや紙芝居・手遊びなどを通じて、読書への導入を図る
こどもの読書週間	4月～5月	・日本絵本賞及び絵本屋さん大賞候補図書の展示と貸出 ・読み聞かせ
読書週間	10月～11月	児童室：大型絵本の展示と貸出 一般室：図書館お勧めの文庫の展示と貸出
図書館まつり	11月	児童室：親子手作り絵本（講師：ささやすゆき氏） 絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、パネルシアター、津軽むがしっこ
おはなしクリスマス会	12月	クリスマスのおはなし・工作教室（手作りクリスマスカード）等を通じて、読書普及を図る
読み聞かせボランティア講習会	11月	読み聞かせの輪を広げ、読み聞かせのネットワークやレベルアップを図り、活動の基盤充実を図るため講習会を開催する
相互貸借	通 年	利用者の希望に応じ、他の図書館と図書の貸し借りをする

【 こども絵本の森 】

事業名	期 間	内 容
えほんのもりのおはなしかい	第1日曜日とその次の週の水曜日	絵本の読み聞かせ、紙芝居、クイズなどで読書への導入を図る
ブックスタートおはなしかい	第3日曜日とその次の週の水曜日	ブックスタート対象者向けにおはなし会と読み聞かせのアドバイスなど

こどもの読書週間	4月～5月	利用者に好きな絵本を紹介してもらい展示・貸出 おはなし会の世界でまちがいさがし～ももたろう～ えほんのもりおはなしかい（春スペシャル）
わくわくクイズラリー	7月～8月	図書館や弘前市に関するクイズに答える
秋の読書週間	10月～11月	お友だちが好きな絵本の紹介
おはなしクイズラリー	12月～1月	本に関するクイズに回答してもらい、本への関心を高める

【 相馬ライブラリー 】

事業名	期間	内 容
おはなしの宝さがし	月1回	読み聞かせや紙芝居・手遊び等を通じて、読書への導入を図る

郷土文学館観覧者数の推移

年度	有料観覧者数（人）			減免観覧者数（人）			無料観覧者数（人）				総計 （人）	
	個人		計	免除		計	無料					計
	一般	小・中 生		一般	小・中 生		65以上	小・中 生	留学生	障がい者		
平成26年度	2,118	72	2,190	32	133	165	617	117	2	23	759	3,114
平成27年度	1,919	123	2,042	56	56	112	509	133	0	47	689	2,843

郷土文学館主要事業内訳

①常設展

郷土出身作家10人の文学資料の展示を中心に、さらに資料の充実を図りながら、より理解が深まる展示に努めます。

②企画展

テーマを設定し、作家の業績を様々な角度から展示紹介する企画展と、これを記念する行事としての講演会などを開催し、郷土ゆかりの文学者の業績と人間像に触れる機会を広く提供します。

③スポット企画展

常設展や企画展で展示できない資料や新たに収蔵した資料を折々の話題に即して展示し、収蔵資料を広く公開します。

④北の文脈文学講座

企画展等の展示資料をもとに、朗読や解説を加えながら鑑賞する文学講座を開催し、郷土作家の人と作品について理解を深めてもらいます。

(3) 図書館等の課題

弘前市経営計画では、「多様な学び」の分野の戦略として、「学び合い支え合う生涯学習活動の推進」の政策の中で、市民の社会参加・ボランティア活動を支える学習機会・学習情報を充実させることを取組内容としています。

弘前市教育振興基本計画（～平成 29 年）では、図書館においては、市民の情報センターとして図書館資料の整備や情報提供を行う一方で、学校と連携し読書活動の充実に取り組むことが示されています。また、郷土文学館では郷土出身作家などの業績を紹介するとともに、その足跡などに触れる学習機会の提供や生涯学習の場としての情報発信が求められています。

さらに、「弘前市子どもの読書活動推進計画」では、図書館等は、子どもの読書活動を推進する上で、中心的な役割を果たすことが求められています。

図書館等がこれらの政策に対応していくためには、図書館ボランティアとの協働はもとより、専門的な職員によるサービスの向上や古文書等貴重資料情報の発信できる仕組みづくりを課題として取り組むとともに、市民の声を反映できる環境を整備し利用者の拡充に努める必要があります。

3 市民からの提言等

図書館協議会、郷土文学館運営委員会、その他図書館関係団体（読み聞かせボランティア等）からの主な意見等。

- ・ボランティアとの連携のすすめ
- ・学校図書館との連携支援
- ・職員の育成、資質向上
- ・熟練者における後継者の育成
- ・利用者の声の反映
- ・郷土文学館の新企画
- ・司書等専門性のある人材の配置
- ・歴史と伝統の継承
- ・地域特性、地域課題に対応した取り組みなど

4 図書館等の理念

『学びと遊びの創造の場、知の拠点』としての地域とつながる図書館等

市民へ図書館等から働きかけ、または市民から図書館等へ働きかけられる環境を形成することにより市民参画の姿が見えてきます。そして図書館等と市民が、または市民相互に「つながる」ことで、図書館等全体が活性化します。

また、語り合える、考える、新しい知恵を生み出す学びと気張らない交流による知的好奇心を醸し出すような楽しい空間が市民と協働で図書館等を創造する「知の拠点」となります。そのような「つながる」図書館・郷土文学館像を今後は市民のニーズを捉えながら目指します。

5 弘前市立図書館・郷土文学館がめざす姿

(1) 「地域の学びの場」としてのつながる図書館等

市民の学びや自己実現を支援する場であり、知りたい情報についていつでも気軽にアクセスできる「地域の学びの場」としての役割を担っていきます。

- ◆幅広い蔵書及び情報を収集することにより市民ニーズに応じた多様な資料等がそろい、市民の自己研さんの場になっていきます。
- ◆司書等専門職員の知力を生かした的確・迅速なレファレンスに応じる体制整備により、誰もが図書館等の資料を探求しやすくなっています。
- ◆図書館ネットワークや古文書デジタルアーカイブの活用により利用者が調査しやすい施設環境が整っています。

(2) 「楽しい交流空間」としてのつながる図書館等

誰もが気軽に集え、交流できる場であり、誰もが自由に参画できる場として市民とともに成長・進化していきます。

- ◆多くの市民が主体的に様々な取組や活動に連携・協力する図書館等が実現しています。
- ◆市民との積極的な協働により、子どもや高齢者、障がい者向けの多様なサービスが充実しています。

- ◆これまでの「静かで落ち着く空間」としての図書館等を基本としつつ、「遊び心を持ちながら楽しく人がつながる空間」としても図書館等が活用されています。

(3) 「知の拠点」としてのつながる図書館等

市民が自ら学び、新たに身に付けた知識や技能を、図書館等を媒介して共有し、活用していくことで、生活課題や地域課題の解決に役立つような環境を整えていきます。

- ◆特定のテーマに関心のある市民が集まることにより、書籍や知識、情報などを通して学びを共有する場となる図書館等が機能しています。
- ◆市内小・中学校、あるいは行政機関等との連携により、図書館等で多様な事業が行われています。
- ◆弘前にゆかりのある人物の本や弘前に関する歴史や地誌、地場産業や固有の文化など、「弘前」に関する資料が蓄積・公開され、多くの人々に利用されています。

6 取組の方向

(1) 「地域の学びの場」をめざして

- ◆情報集積の拠点として、利用者が活用しやすい適切な整理・配架・資料収集を行います。
- ◆図書館司書等の確保、育成によりの的確、迅速な図書案内、読書アドバイス等のレファレンスサービスが可能となります。
- ◆古文書デジタル化など情報通信技術の活用により、利用者の新たな発見や求めるものへの充足感を与えます。

(2) 「楽しい交流空間」をめざして

- ◆図書館モニター等を活用し、市民アイデアを生かした企画を取り入れながら市民の主体性を導きます。
- ◆子どもから高齢者、さらには障がい者へのサービスを充実させていくためにも、様々な面で図書館と一緒に支えてくれる図書館ボランティアとの協働事業を進めていきます。
- ◆新たなボランティアの募集によりボランティア活動が充実することで

各団体の連携を土台とした図書館等支援体制が進展することが期待できます。

- ◆「そうだ、図書館に行ってみよう。」と思える、知的好奇心をくすぐるような楽しい空間を創っていきます。

(3) 「知の拠点」をめざして

- ◆郷土、健康、環境、災害、情報メディアなど各分野に関連した図書を題材にしたフォーラムやワークショップなど市民向けの企画を進めます。
- ◆学校図書館の支援事業、子どもの読書活動を推進する事業等、関係機関との連携により積極的に実施します。
- ◆図書館等が所蔵する貴重な歴史資料のデジタル化を推進し、インターネットを媒介として全国に発信します。
- ◆「りんご」、「さくら」、「こぎん」などの地場産業や固有の文化、郷土出身作家の作品や城下町ひろさきの歴史など「弘前」に関する資料を収集、蓄積していきます。さらには市民に関心を持ってもらえるようテーマ別の展示や紹介、発表会などを通して公開していきます。

7 図書館等サービスの推進にむけて

(1) 市民意見の反映

図書館利用者意見ポスト、図書館モニター、フォーラム等の事業を通して図書館等の利用者から寄せられた意見や要望については、教育委員会の責任のもと、附属機関である弘前市図書館協議会及び弘前市郷土文学館運営委員会において分析・評価し、図書館サービス等へ反映させるとともに、市民に公表します。

(2) 情報発信の強化

図書館等ホームページや図書館報「はと笛」などの図書館情報については、内容を充実するとともに古文書等貴重資料については、デジタル化を進め順次公開していきます。

また、図書館を日頃利用していない市民にも関心を持ってもらえるよう図書関連の講演会やフォーラムなど図書館等から市民へ発信する事業への取り組みを進めます。

(3) 市民の参画促進

図書の整理、書架整理、読み聞かせなど、図書館ボランティアが多彩な活躍をすることで、図書館サービスの幅が広がります。現在読み聞かせボランティア7団体と閲覧ボランティアが活動していますが、ボランティアが、図書館の支援団体として幅広く自主的に活動できるよう懇談会を開催しながら事業連携を進めていきます。

また、ボランティア募集などにより図書館ボランティア層を拡充し、ボランティア相互の連絡調整を促すとともに、組織化に至った場合は、サポートに努め市民参画による運営を進めていきます。

さらには、市民企画を受け入れるなど、市民の主体性を導きます。

（４）他機関との連携

子どもたちの読書活動を推進するための学校図書館訪問事業、読書想文コンクール、移動図書館の学校訪問や、市民全般を対象としたブックスタート事業、リサイクル図書事業などは司書がコーディネーターとなり他機関との連携事業を積極的に進めます。

また、図書館相互貸借制度等、弘前市以外他図書館との連携により利用者の利便性が向上します。

（５）効率的効果的な運営体制の構築

司書を中核としながら多様な任用形態の職員も含めて活用し、効率的な職員配置に向けて取り組みます。また、本館、分館、分室等の図書館等各施設については、利用状況や立地条件を踏まえながら柔軟な職員配置をめざして、指定管理者制度導入を機にさらに効果的な運営体制を構築します。

◆市民意見等による図書館サービス向上イメージ

理念『学びと遊びの創造の場、知の拠点』としての地域とつながる図書館等

－ 図書館・郷土文学館の目指す姿 －

①地域の学びの場

- ・適切な整理・配架
- ・的確・迅速な案内
- ・デジタル資料の活用

②楽しい交流空間

- ・市民アイデアの活用
- ・ボランティアとの協働
- ・ボランティアの充実
- ・楽しい空間づくり

③知の拠点

- ・市民向け企画
- ・関係機関との連携
- ・デジタル化による発信
- ・郷土資料収集・公開

市民意見等による図書館サービスの向上

